

弓道ながの

第73号

発行：長野県弓道連盟
会長 外蘭公毅
〒399-4117
駒ヶ根市赤穂10214-4
TEL0265(83)5206
編集：県弓連広部
印刷：県成進社

巻頭言

全弓連のこれからを思う

長野県弓道連盟副会長 松島 貞治



昨年六月に全弓連の理事に、という話があり、外蘭会長からは、受ける受けない、どちらにしても最後は本人次第と言われていましたが最終的に引き受けました。その会長の前号での気持ちを受け、全弓連の議論を通じて感じていることをまとめます。全弓連は、平成二十三年十一月に「公益財団法人」となり、スムーズなスタートを切りました。もちろん、法人としての各種規程、規則はじめ運営方法等その整備が大変だったのですが歴代役員が努力で乗り切ってきました。そんな中で平成二十六年矢羽問題が浮上し処分が行わ

れ、これで決着と思うと、また投書が続き、平成三十年十月内閣府の立入検査を受け、平成三十一年二月二十六日付で内閣府公益認定等委員会委員長から三点について報告要求がありました。それは、一、公益財団法人の財政運営に四年間黒字になっていること、是正。二、称号の付与、段級の認許、つまり審査事業で、公平性、透明性を確保する仕組みができていない可能性がある。三、矢羽の違法取引禁止規定の徹底に係る取り組みで、立入検査の結果、違法矢羽の授受の関与が疑われている現職理事及び元役員が存在する。これをどのように認識し、どう取り組むか、との指摘です。これに対し、全弓連会長名で三十一年三月二十五日に文書で回答しました。その後中野会

長以下当時の役員が辞任し、新たな役員が決まりました。いまの理事会、監事には、全弓連が指摘事項の解決方向を示した回答に沿い、その実行が求められています。審査については、委員会をつくり検討中です。矢羽については、専門家による調査委員会から今年の一月三十日に調査報告書が提出されました。報告を尊重し、今後倫理委員会での処分の協議がされる弓道人もいます。個人的には、匿名の投書を取り上げる必要があるのか、すでに処分も下されているので決着していいのでは、と思ってきましたが、人格識見とも最高峰の指導者である範士、また範を示すべき称号受有者の法律違反行為を容認する弓道連盟が公益財団法人といえるのか、と言われると返す言葉がありません。また、矢羽や審査に関し、投書など問題にしているのが弓道人、つまり内部からということも重い課題です。ただ、今回の結論が出れば決着になるのではないかと思います。



登録人口は約十三万五千人しかいません。しかも半分は、学生で卒業後続ける人はわずかです。弓道人口の増加のために、特に、称号受有者は、自身の昇段昇格よりまず足元で底辺拡大に汗を流すことが必要だと考えております。私は、行政現場にいたとき泰阜村での生活者視点で原点で、そこから永田町、霞が関に発信してきました。弓道も泰阜道場が原点です。村で一人でも弓道人を増やし、何とか道場を維持したい。それが中学の武道で弓道を選んだことにつながっています。これからも軸足をわが道場に、そして長野県におき発信、発言していきたいと思

祝
教士格
教昇

弓との縁から人との縁へ

上小支部 教士六段 高地 美佐子

昨年十二月二十二日の東京特別臨時中央審査において、教士の称号をいただきました。これも諸先生方、そして弓友の皆さまのご指導と叱咤激励のお蔭と心より感謝しております。

私は平成二年の上田市弓道教室から弓を始めました。きっかけは妹が私の母校である高校で、班活動に弓道を選んだことでした。妹は高校卒業と同時に弓道を辞めてしまいました。私の方が弓道にハマって今に至ります。そして今、高校受験を控えた姪が高校で弓道をやりたいと、録画したアニメ「ツルネ」を観ながら受験勉強しているようです。(この「弓道なごの」が発行される頃には結果が出ていると思います……)

さて七年ぶりの教士審査、審査独特の雰囲気を出す間もなく十一月一日を迎えました。久々の審査だったので、緊張というよりあの場に立った時に自分の射ができるのかどうか気になっていました。そうして一次を通過し二次に進みましたが、二次では審査に対する緊張感が戻ってしまい、射場に入ると頭の中は冷静で動きはわかって

いるのに体が予想外の動きをして、私が求めていた結果につながりませんでした。この審査で二次まで進めただけで良しと考えましたが、この審査後の十一月十九日に左手薬指のバネ指手術が決まっていたので、ここで良い結果を出したかったというのが本音でした。

帰ってから二、三日は十二月の特別審査の事が頭をよぎりましたが、手術後の事を考えると審査を受けるべきか悩みました。でも「十二月に向けて頑張つて」と先生や弓友からメールで励まされ、手術は自分で決めたこと、それなら抜糸までの二週間は一つの動きの確認と体配、抜糸してからの三週間弱で射をなんとかすると気持ち切り替えて十二月の受審を決めました。実際に弓を握ったのは抜糸から三日後、離れの瞬間の痛みと弓手の感覚の違いから、射が崩れたらどうしよう、でも審査は一手の我慢と不安になりながら審査までの日々を過ごしました。当日は小田急線の車内で、至誠館弓道場で月例会だという弓を持った先生にお会いし「体配、体配をしつかりと

ね」と念を押されながら道場までこじ縮しました。

今回の審査では、一つの稽古につきあって下さった先生や弓友がいて、また私が弓道を始めた時から地域を越えて指導して下さいました先生方がいて、本当に心強く感じられました。そして手術後に弓を再開した時に射を見て下さった先生の「いいよ」の一言、その一言がどれだけ私の自信につながり私を安心させたことか。それに弓を持つ

てただけで面識のない私に声をかけて下さった東京の先生と、多くの先生や弓友に励まされていた「教士」です。今度は私がそのお気持ちに応える番だと思っています。今まで自分がそうしていただいたように後に続く弓友のため、思いやりと感謝の気持ち、そして笑顔で頑張ろうと思えます。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



令和二年度事業始動!



理事長
事務部長兼事務局長
湯澤 秀雄

どうなる? 令和二年度

この原稿を書いているのが二月下旬。新型コロナウイルス感染症が発生し、北信越弓道連合会の役員と全日本弓道連盟会長との懇談会が中止、都城特別臨時中央審査会、第五十二回全日本女子弓道大会(中日本の部)も中止となりました。また、全弓連は矢羽問題が収束せず、指導者講習会、指導者育成講習会も予定はしているものの開催すると断言できない状況です。

昨年はスポーツ団体のガバナンスとコンプライアンスの問題が話題となりました。スポーツ庁は昨年八月にスポーツ団体ガバナンスコードを纏め発表しました。これを受けて、長野県スポーツ協会は定款、倫理規定等の改正作業を進め、更に処分規定をも定めて七月一日から施行する計画です。長野県弓道連盟はこの規定を遵守するに必要な規程の整備を求められています。更に、ガバナンスコードに係るセルフチェックシートを毎年作

成し会員に公開すること、四年毎に長野県スポーツ協会の適合検査に合格しなければならぬことになっていきます。

全弓連も「月刊弓道」の二月号に掲載されているように、外部弁護士が窓口となる《内部通報窓口》を設けてコンプライアンス体制の確立を図り、四月から運用が開始される予定となっています。

今年度県弓連が予定している特別な行事は五月に長野運動公園総合運動場弓道場で「北信越地区指導者講習会」、七月に松本市弓道場で「北信越弓道練成大会」があります。この会報の発刊時には開催が確定していることを念じています。運営のご協力をお願いします。令和三年八月二十一日、二十二日に飯田運動公園県営飯田弓道場で北信越国体を開催します。今年の長野県支部対抗競技会等を利用してその準備をしていきたいと思いますのでよろしくお願いします。



指導部長
新津 一夫

二年目と思う

昨年、前指導部長より交代して早くも一年が過ぎ、二年目に入ろうとしています。

昨年一年指導部員及び各支部の皆さんのご協力により、指導部の行事が無事に終了できた事に、先ずは感謝しております。

さて二年目に向かって、指導部の仕事は、全弓連の伝達事項の県下弓道人への、伝達が大きな仕事になります。

私が弓を引き始めて、参、四段の頃には、長野県には範士の先生が沢山おられました。(十名程)

先生方は地区指導者講習会の講師など、中央で活躍されている先生方なので、長野県内の講習は全弓連の指導そのもののような講習が行われており、又各道場ではその先生から指導を受けた先生方の指導が行われていたと思います。

残念ながら、今では亡くなられたり、ご高齢で指導はされなかったり、中央と直結するのは杉田範士だけとなりました。

最近では、長野県は人材不足と言われるようになって来ています。

だが、徐々に昇段・昇格者が増えてきているし、全弓連のいろいろな大会等で入賞者も増え(全日本選手権・国民体育大会・勤労者大会・京都大会・明治神宮大会)など、令和元年度は、優秀地連得点では十三位の得点を取れました。

これは、長野県として先を見据えて、長年かけて取り組んできた強化の賜物であると思います。

しかし時代の背景もあり、弓道人口の減少、高齢化と若い人の仕事との両立がしにくい環境にあると思うし、できないのが現実でしょうか。

さて、このような状況の中で、指導部としては、どのように対応していくか、先ずは、先ほどの伝達講習会を柱に、又、各層別にターゲットを絞った講習をし、日頃の稽古に役立ててもらえるような講習になればいいと思うし、講習にしたいです。

指導員講師・審査員等の育成も大切であり、令和二年度も、皆さんのご協力と、指導部員の方々の負担も大きいとは思いますが、宜しくお願い致します。



競技部長
内山 喜照

競技会に挑戦してみませんか

競技部長を務めて一年目を無事に終えることができました。県連主催の競技会の開催につきましては、各会員に多大なるご協力をいただき、感謝申し上げます。本年もどうぞよろしく願っています。

令和元年度、競技会には延べ人数で三九五名の会員に参加していただきました。平成三十年度の三八三名は上回っ

たものの、支部対抗戦の遠的が四人チームから五人チームになったことを考えると、ほぼ同じ参加人数といえると思います。平成二十九年度まではずっと四〇〇人を超えていたのですが、二年連続で四〇〇人を割ってしまいました。県弓道連盟では会員数の減少が課題になっていますが、競技会の参加者も少しずつ減少しているのが実情です。

競技会別にみると、勤労者大会と県遠的選手権の参加者がほぼ横ばいなのに対して、全日本県予選会と近的選手権の参加人数が減少傾向にあります。勤労者大会は団体五人一チームから三人一チームになったことで、小さな企業や事業体にも参加する機会が増え、働く仲間の中で誘い合って新規参入してくるチームが毎年数チームある状況で、厳しい経済状況にあっても参加人数を維持できています。遠的選手権は国体を目指すが若い参加者が多いのと、平成時代に県内各所に常時遠的練習ができる施設が整ってきたことが、参加者を維持している一因かと思っています。

全日本選手権大会の県予選会は採点制を採用する県内唯一の競技会です。二〇〇九年の降旗奉子先生の皇后杯、二〇一四年の平澤敏弘先生の天皇杯を筆頭に全国上位入賞の実績も増えてきた一方で、県内弓士には敷居の高い競技会になっているのでしょうか。高得点を獲

得して勝つのは難しい競技会ですが、自分を磨くために挑戦してみたいかがでしょうか。

近的選手権は誰もが最も参加がしやすい競技会かと思えます。自分自身も三十年前に地元弓友に誘っていただき、わけもわからず最初に参加したのがこの近的選手権でした。失敗することを恐れずに出場し、結果と課題を持ち帰るのもよいかと思えます。参加資格は会員全員にありますので、難しく考えずまずは出てみる、といったことも歓迎します。

会員各位にはご自身で参加していただくことはもちろん、相互に誘い合っていたいで競技会を楽しんでいただきたいです。競技会場にてお待ちしております。



審査部長
篠澤 英次

令和二年度に向けて

暦も平成から令和に変わり、審査部も新体制になり早一年、手探りで始まった新審査部でしたが、外菌会長はじめ、関係支部の皆様のご理解とご協力により、全十四回の審査会を無事に終えることができました。心より御礼申し上げます。

ます。

さて、審査部事業において、昨年度から変更した点を二つご報告いたします。

- 一つ目は、全ての審査会において、審査委員への誓約書署名を義務化致しました。これは、審査委員として求められる公正性・透明性の確保に向けて
 - (一) 公正公平な審査の実施
 - (二) 全弓連・地連の利益を損なわない又はこれに損失を及ぼすような行為を行わない
 - (三) 品位を汚し信用を損なうような言動を行わない
- 事を誓約するものです。

二つ目は、審査会における集計方法の変更です。集計表をそのまま製本できる形態にしました。今まで複数回の確認作業と転記作業が必要であり、作業時の手間や転記ミスリスクがありました。それらを改善する目的で審査委員の結果をそのまま製本し、集計作業の効率化と、転記作業の廃止を実施しました。

いずれも、審査会を開催するにあたり必要な対応であり、問題なくできましたので、今後も引き続き実施して参ります。

しかしながら、審査部が取り組まなければならない大きな課題があります。それは、県全地区において受審者数が減少していることです。昨年度は、過去五年

間で最も受審者数が減少しており、今後早急に改善策を検討していく必要があります。

この課題の改善策の一つは、受審しやすい環境づくりを整えることです。今年度も全十四回の審査会を計画しておりますが、参四段審査会を四月初旬に設定し、式段以下審査会の日程を、一地区別日にしました。これにより、無指定審査種目の併願採用を可能にし、受審者の選択幅を増やすように整えました。日程都合により審査を諦めるような事が無いよう、一人でも多くの方が受審できるようになれば幸いです。

最後になりますが、今年度も受審者の皆様が安全かつ集中して受審できる環境を早急に整えていくよう審査部員一同考えております。関係各位には、昨年同様大変お世話になります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



強化部長
永藤 聡

強化部あれやこれや

早いもので、私が強化部長を拝任して六年目となりました。私は、こういう役

職は不慣れというよりも不向きだと思っ
ているのですが、結構長いこと続けさせて
いただきました。また、気持ちを新たに
一年間務めさせていただきます。

さて昨年の国体ですが、なんとか三種
別が本国体に進むことができました。

北信越国体では遠的での成績が悪く、
一日目が終わった段階では全滅かと危
惧された方もいたとは思いますが、選手
と強化部員は全く通過することを疑わ
ず、三種別が通過することができました。

(少年男子が遠的での一点差で通過を
逃してしまいました。残念！ 成年男子
は三位で通過。少年男子(ごめんね)

本国体の茨城では、遠的会場の風が多
少不安定でしたが、天候にも恵まれ良い
状態で臨むことができました。ただ例年
通り、練習会場の取り合いなどは熾烈で
した。

今回は二種目入賞することができま
した。選手はよくやってくれましたが、
どうも満足している選手はいないよう
です。今年に生かせたらと思います。私
個人的な目標はこだけの話ですが、予
選を一位で通過し、そのまま優勝する
というのがひとつです。五年前の和歌山
国体では成年男子が遠的予選一位通過
しましたが、結果は六位。近的は決勝ト
ーナメントでは一本も外さずに優勝し
ました。予選では六位通過でした。予選
一位で通過し優勝したのは、十年前の千葉

体の成年男子遠的までさかのぼります。

もう一つの目標は、実はこれの方が
達成したい目標なのですが、四種別で
国体に出場し、各種別二枚ずつの賞状を
いただいてくるというもので、わかりや
すく言うとならば全種別出場し全種目入賞
という目標です。ここ数年、本国体には三
種別が出場しておりますが、四種別で
出場したのは十三年前の秋田国体が最
後です。北信越の中には一チームも本
国体にいけない県もここ数年何県あり
ます。そういう県にとつては贅沢な目標
ですが、長野県の弓道のレベルは間違い
なく北信越一番です。四種別出場は贅
沢ではありません。そして全種目入賞
も贅沢とは思いません。本県も七年後の
長野国体では四種別出場となるのでし
ょうが、選手の皆さん、それまでに何と
かお願いします。

そのような目標に立ち向かうに、国体
を取り巻く状況は年々厳しくなってお
ります。職場での国体に対する無理解
は、ずいぶん前からですが、高校生の部活
動の抑制は凄まじいものがあります。弓
道部員および国体選考会への参加者も
減る一方です。また、顧問の先生も多く
の優秀な先生方が相次いで定年となり、
指導者の不足も本場に困った問題です。
県スポーツ協会は補助金を多くしてく
れてはおりますが、それだけではどうに
もなりません。

これからは、指導者の育成は急務です
が、外園会長がよく言われている、各道
場で高校生を指導する体制と卒業後の
受け入れ態勢が必要かと考えます。考
えるだけでなく、自分の所属道場で実践
していきたいと思えます。

そういえば、今年には外園会長の故郷の
鹿児島で国体です。頑張ります。まずは
事業計画に添い、目の前の強化を着実に
実行し、成果を上げていきたいと思いま
す。本年度もよろしく願っています。



ジュニア部長
中山 光康

部活動について

ジュニア部長を仰せつかつている中山で
す。昨年度は、中・高校生の大会で大変
お世話になりました。本年は例年の大
会に加え、第十回北信越高等学校新人
弓道大会を十一月に松本市で開催予定
です。色々とお世話になりますが、宜し
くお願いします。

さて、昨今の中学・高校の部活動につ
いては大きな二つの動きがあります。まず
一つ目は、教育委員会からスポーツ活動
指針が出されたことです。この指針によ
り、部活動において「休養」が重要視さ

れるようになってきました。毎日運動部
活動を行うと怪我が増えるという論文
があることが、指針が作られた理由との
ことです。もう一つの動きは、合同チ
ームについてです。現在、インターハイで合
同チームでの参加を認めていくかにつ
いて検討が行われています。検討結果によ
っては合同チームの参加が認められるこ
とになり、地区大会も検討の必要がある
(県スポーツ課からは、すぐに検討をし
て欲しいと要望されています)と思われ
ます。競技人口の減少が、大会の形を考
える上での大きな要因になってきている
状況です。このように、高校生(中学生)
のクラブの在り方が色々変化していく
時代となつてきています。

話は変わりますが、高校で弓道をやっ
ていても、進学や就職を機に弓道から離
れてしまうというご指摘をよく受けま
す。どうしたら残ってもらえるのかとも
考えますが、その一方で一度は弓道から
離れたものの、もう一度やりたいと、地元
の弓道教室に通い始める方もいらつしや
います。そういう方々をみて思うことは、
何かのきっかけで再開してもらえよう
な魅力ある弓道部の活動である必要が
あるということです。弓道部の顧問は、
未経験者も多くいます。学校間での交
流、顧問の交流ということも大切と思
います。良い経験のできる高校弓道であ
るよう、微力ながら努力していきたいと考

えています。
最後に、多くの弓道場で高校生たちが練習等でお世話になりますが、何卒よろしくお願い致します。



広報部長
荒川 保

広報部の使命

日頃広報部の活動につきまして多大なるご協力とご支援をいただき御礼申し上げます。

広報部はご存知の通り、広報「弓道なご」の発行とホームページの管理を主な仕事としております。年四回発行の「弓道なご」では、巻頭言をはじめ、講習会や大きな大会での入賞者、昇段昇格、表彰者、そして弓道仲間や私と弓道など、会員の皆様に執筆をお願いしております。急なお願ひにもかかわらず快く原稿を書いていただいた方には厚くお礼申し上げます。原稿にはどうしても締め切りがあり、大変お忙しい中での執筆に、催促などの失礼をこの場をお借りしてお詫び申し上げます。「弓道なご」の創刊号が平成十四年四月五日に発行されました。十八年が過ぎ七十三号を発行するに至

りました。この毎回の広報紙が長野県弓道連盟の歴史となってきました。これからも更に積み重ねていくことを念頭におきながら編集しておりますのでお許しください。会員の皆様におかれましてもぜひ「弓道なご」にご執筆いただき、県弓道連盟の歴史に名前を残していただきたいと思ひます。

ホームページは皆様からの情報がとても大切です。地方大会の開催要領から結果、審査や弓道教室など掲載できる内容は多種多様となりますが、いただいた情報をそのまま掲載することが基本となります。掲載された内容は誰でも閲覧が可能となりますので個人情報には十分にご留意いただきたいと思ひます。令和七年にはながの国体の開催が決定し、そこに向けての取り組みや進捗状況なども発信できたらと思ひます。

会員の皆様をはじめ、高校生や県外の方にも覗いていただけるようなホームページを作っていきたいと思ひますのでこれからもご協力をお願いいたします。

どちらにしましても、読んでいただける、見ていただける、が広報の使命です。これからも皆様のご活躍や、寄せていただいた情報を基に紙面やホームページを充実していきたいと思ひますのでどうぞ宜しくお願い致します。

弓仲間紹介

弓の向き合い方

諏訪支部 四段 濱直樹

弓を引くようになり、気付けば六年が経とうとしています。

それまで何かに夢中になって取り組むことになかった私が毎日のように道場に通い、常に弓の事を考えている。今思えば、きっとこれが夢中になるということなのでしょう。

私にとって、弓の稽古は試行錯誤の連続です。二年前から一般として弓を引くようになり、身体の使い方について深く教えていただくようになりました。形をなぞって引いているだけでは理想的な射を再現することはできず、内面の力の流れや体の感覚まで考え、自分の身体に落とし込んでいかなければなりません。先生方に感覚を教えていただいても正確に理解し再現するのは難しく、まずは身体の感覚を研ぎ澄まし、射の運行において細かな力の変化を感じ取れるようになるうと意識しています。



また、所属支部や強化練習等に行っても大抵自分が最年少ということ、自分はまだまだ未熟であり、射技指導を頂く立場だと安心している節がありました。しかし、昨年四段を頂いたことが切っ掛けとなり、段位とともに少しずつ指導を行う側の立場になっていかなければならないのではと考えるようになりました。尊敬する先生方の

段位に近付いていった時、先生方と同じだけの経験を積み、目を鍛え、自分の感覚を言語化できるようになる為、今は精一杯考えて試行錯誤を繰り返して、五段の取得に向けて稽古に励んでいこうと気持ちを新たにしました。

私を導き、共に試行錯誤をしてくださる先生、選手として活躍された方、同年代の仲間等々、県内外問わず弓を通して沢山の方々と繋がることができました。そんな沢山の方々に支えられて弓を引いていることを忘れず、今後自分が満足できる理想的な射の実現を目指して真摯に弓と向き合っていきたいと思います。

私と弓道

佐久支部 錬士五段 持田 武二

今から六十一年前、中学三年の、みぞれ混りの雪の日、緊張と寒さに震えながら審査に臨み、初段を認許された事が昨日の様に思い出されます。中学・高校と、六年間部活主体で過ごしましたが、大学・社会人となり、弓道に接する機会が無くなりました。

約半世紀後の平成二十五年三月、佐久駒場公園を散歩中、偶然佐久弓道会の月例会を拝見しました。当然ながら私は、体配所作等全て忘れており、加えて年齢的な抵抗もあり、再開を躊躇しましたが、意を決し五月からの弓道教室に入り、壱から



弓道を習い直しました。気付けば、六十九歳。五十数年のブランクができていました。その年、勧めもあり式段を受審、以後毎年、諸先生弓友に助けられ、年齢と競争しながら昇段に挑戦し、再開して五年目の五月、錬士の称号を授与されました。

武市義雄範士は「射道芸術の探修」の中で「弓を習うという事は、弓矢を使い、人間最高の芸術を修学し、最終的には、自己という人間を創ることである。また、弓道は全武道の中で最高に芸術的な武道であり、弓道には、術あり・法あり・礼あり・理あり・道、教あり、しかも「格」というものがある。そして、伝統の日本武道文化を継承し、老いては身心の安定と健康維持増強の淨楽技でもある」と言われています。このような奥深い芸術的な弓道に気付くのが、あまりにも遅過ぎましたが、体力気力が続く限り、常に挑戦する気概と向上心を持ち、これから弓道を始められる方々と共に、弓道を淨楽技として実現できれば望外の喜びです。これからも自己を見つめ直し、学び続けていきたいと思いを申し上げます。

寄稿

会員数減少対策としての五十射会

飯伊支部 錬士五段 松枝 敏広

昨今は、どの支部でも会員数の減少と高齢化が重要な問題かと思われま

す。山間過疎地が多い飯田下伊那は特に顕著であり、かつては三百名を数えた会員数も現在では二百名ギリギリの状況であり、藤澤支部長はじめ先生方が様々な対策を練られています。

そんな中で、当支部では六十歳以上を対象にした「シニア寿大会」が開催されて盛況であるので、六十歳未満を対象とした射会を企画して若手弓士を取り込んで盛り上げるべき、と支部長から発案がありました。そこで高校生から五十代までを対象に「青年層五十射会」を一月十三日に開催しました。

高校生も対象にしたのは、八校ある高校の全てに弓道部がある割には二十代会員が少ない現状を考えると、社会人と一緒の部門で競うことがなく、お互い面識がないことが

将来弓を再開したいと思つた時の障壁になると思われ、今のうちに交流を深めておきたいという希望もあります。



さて、射会当日はテスト期間中の学校もあった為、高校生は六人でしたが、二十六名の若手弓士が参集しました。

普段の飯伊の射会では応援や野次が飛び交い射場内が賑やかになることが多いですが、今回は全員が緊張感を持って一射一射丁寧に引いていたのが印象的でした。

昼食時には高校生や二十代の若手から弓道を継続するにあたっての悩み事、要望等、意見交換ができました。射会は井原寿恵選手が四十七中という見事な成績で優勝、盛会の中終了しました。反省点も多々ありましたが、次回に生かせるように改良を重ねて、今後も会員数を減らさない活動として継続していきたいと思えます。

安全管理・事故防止の徹底について（依頼）

公益財団法人 全日本弓道連盟
会長 増田 規一郎
(公印省略)

標題のこと、競技中に射場内の選手が放った矢が観覧席に飛び込んでしまうという事故が発生いたしました。幸いにも矢は観覧席を通り抜け、奥の茂みに飛び込んだため大きな被害には至りませんでした。しかしながら、過去には弓道活動中、不幸な事故が発生した事例もあり、弓道場の安全管理の必要性を強く認識し、対策を講ずる必要があると存じます。

本連盟といたしましては、中央道場（明治神宮内苑）の観覧席と矢取り道の両側に矢の飛び込み等を防ぐための防護ガラス板を設置するなど、安全管理・事故防止の措置を講ずるため明治神宮との協議を進めることといたしました。

また、本連盟の主要な競技会などの実施にあたっては、然るべき対策が講じられていない会場では行事を実施しないなどの措置の検討も必要になる場合もあるかと存じます。

各地連におかれましても、安全管理・事故防止には一層のご留意をいただくとともに、同様の事故を防止するため適切な対策をいただきますようお願い申し上げます。

なお、万一の事故に備え、任意の傷害保険等への加入をいただくよう併せてお願い申し上げます。

【事故概要】

都内で開催された中学生の大会において、選手が行射中、観客席に矢を飛び込ませてしまう事故が発生した。矢は観客の近くを抜け、奥の茂みに飛び込んだ。幸い矢と接触した観客はなく被害は出なかった。

【その後の経過】

事故が起きた直後に、主催団体の役員が矢の飛び込んだ直近にいた観客からの状況の確認、謝罪を行った。会場内の混乱はなく、当該の選手の行射は中断、退場とし大会は再開された。

【今後の対策】

主催団体において、前側の観覧席には観覧者を入れない、1番的の射場を使用しないなどの検討を行う。会場管理者には、防矢のためのアクリル板の設置を要望した。

大会結果

第75回国民体育大会弓道競技 長野県成年男女一次選考会

○令和元年11月24日(日) 塩尻市菅弓道場

参加人数・男子31名、女子15名

▲成年男子13名

- 岩原 祐貴(諏訪)
- 水間 貴大(佐久)
- 山崎 征樹(松本)
- 小田切祐典(小諸)
- 浜 直樹(諏訪)
- 蟹澤 史弥(上伊那)
- 保木野克海(長野)
- 平澤 敏弘(飯伊)
- 藤森千友貴(上小)
- 岩村 拓生(飯伊)
- 保科 良介(上伊那)
- 蟹澤 契太(上伊那)
- 清水 北登(佐久)

▲成年女子10名

- 飯野 葵(諏訪)
- 井出 遥(佐久)
- 小林陽南子(長野大学)
- 中田 美千(松本)
- 保科 茉柚(松商学園)
- 中原 瑠美(上伊那)
- 馬場 絢音(上伊那)
- 大橋 歩実(佐久)
- 春日 桃桜(上伊那)
- 藤澤 敏恵(長野)

野辺山洗心弓道大会

○令和元年12月7日(土)・8(日)

帝産ロッジ

▲近的28射、遠的12射

- | | | | | |
|----|------------|------|------|------|
| 1位 | 蟹澤 契太(上伊那) | 近的24 | 遠的11 | 合計35 |
| 2位 | 清水 伸浩(諏訪) | 近的25 | 遠的10 | 合計35 |
| 3位 | 藤森千友貴(上小) | 近的25 | 遠的10 | 合計35 |
| 4位 | 清水 北登(佐久) | 近的26 | 遠的9 | 合計35 |
| 5位 | 相楽 倫男(宮城県) | 近的21 | 遠的12 | 合計33 |

第1回飯伊弓友会青年層50射会

○令和2年1月13日(月・祝) 豊丘道場

参加人数・26名(28名欠2名)

- | | | |
|----|-----------|-----|
| 1位 | 井原 寿恵(豊丘) | 47中 |
| 2位 | 岩村 拓生(松川) | 42中 |
| 3位 | 熊谷 駿佑(下條) | 40中 |
| 4位 | 松枝 敏広(喬木) | 38中 |
| 5位 | 牧内 和宏(喬木) | 37中 |

第75回国民体育大会弓道競技 長野県少年男女一次選考会

■北信地区(参加人数・男子59名、女子72名)

▲男子通過選手10名

- 春日 俊哉(飯山)
- 新井 雅也(中野西)
- 小林 和哉(長野工業)
- 外谷 悠人(長野西)



2027
国体・全障スポ
開催!
国内最大のスポーツの祭典を
長野県で開催します。 82回国民体育大会

- 石井 丈巳(長野日大)
- 石田 湧信(長野日大)
- 小山 瑛己(長野日大)
- 田口 維吹(長野日大)
- 鈴木 恵太(長野南)
- 古川 翔太(文化学園)
- 女子通過選手12名
- 篠田 凜(飯山)
- 富井 美空(飯山)
- 飯島 紗希(長野商業)
- 矢花さや香(長野日大中学)
- 夷 久瑠美(長野日大)
- 松永 真衣(長野日大)
- 峯村 桃子(長野日大)
- 小野明香里(長野日大)
- 小林 由季(長野日大)
- 塚田 綺来(長野東)
- 鈴木 愛奈(文化学園)
- 加藤 夕佳(文化学園)

弓道合宿予約随時受付中!

野辺山洗心弓道場

- 近的道場 18人立1ヶ所(床暖房完備)
- 12人立2ヶ所
- 遠的道場 1ヶ所

帝産ロッジ

〒384-1305
 長野県南佐久郡南牧村野辺山1003
 HP: <http://www.teisanlodge.com/>
 ご予約・お問い合わせは 0267-98-2861

■東信地区(参加人数:男子28名、女子52名)

▲男子通過選手3名

亀岡 冬哉(岩村田)

藤田慶一郎(岩村田)

室賀 俊飛(上田)

▲女子通過選手6名

井澤 由羽(岩村田)

中澤 真帆(岩村田)

青木 宥佳(上田染谷丘)

藤澤 綺咲(上田千曲)

小林 路実(小諸商業)

北原 梨子(野沢北)

■南信地区(参加人数:男子37名、女子45名)

▲男子通過選手3名

藤森 翔(岡谷南)

清水 魁星(高遠)

柴田 和宜(東海大諏訪)

▲女子通過選手6名

新村 茉由(赤穂)

橋爪 彩花(赤穂)

平澤 玲奈(赤穂)

五十嵐音葉(伊那弥生)

小林 琴音(伊那弥生)

山下 紗花(伊那弥生)

■中信地区(参加人数:男子69名、女子78名)

▲男子通過選手10名

内木 大介(木曾青峰)

小池 将弘(木曾青峰)

清水 兼聖(塩尻志学館)

矢澤 輝(都市大塩尻)

成田 拓未(松商学園)

小澤 章太(松商学園)

寺沢 真拓(松商学園)

三浦 颯悟(松商学園)

一本木見大(松本県ヶ丘)

旗町 希羽(松本県ヶ丘)

▲女子通過選手15名

千野 叶恵(木曾青峰)

寺嶋 瞳(木曾青峰)

向山 怜(木曾青峰)

犬飼 真唯(豊科)

市川 千乃(松商学園)

大野 桜季(松商学園)

北澤 奈美(松商学園)

林 萌香(松商学園)

横山 綾乃(松商学園)

丸山 とわ(松本県ヶ丘)

武井美彩生(松本県ヶ丘)

都筑ほのか(松本県ヶ丘)

新井 瑠愛(松本県ヶ丘)

武田 彩羽(松本県ヶ丘)

吉江 真緒(松本深志)

第28回中野冬季百射会

○令和2年2月16日(日)

中野市弓道場

参加人数:55名

- 1位 塚田 混巳(佐久) 88中
- 2位 平塚 祐介(佐久) 76中
- 3位 生田 憲克(長野) 73中
- 4位 藤澤 綺咲(上小) 72中
- 5位 藤澤 敏恵(長野) 69中

昇段昇格者

■「東京」特別臨時中央審査

▽教士の部 令和元年12月22日付

高地美佐子(上小支部)

訃報のお知らせ(敬称略)

長野県弓道連盟 上小支部
錬士六段 池田 文英(87歳)
令和元年12月24日(火)

逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表し、
お知らせ申し上げます。



つづい

事業部会が今年も一月の第二日曜日に松本で行われましたが、その帰り松本市内では伝統行事の「あめ市」が行われていました。歴史は古く上杉謙信が武田信玄に「敵に塩を送る」の逸話に由来しています。江戸時代には「塩市」として現在は「あめ市」となりました。『商売繁盛』や『五穀豊穡』を願うての行事ですが。

古くからの行事と言えば、毎年三月十七日に行われる穂高神社の御奉射祭は平安時代からと言われています。歩射↓歩社↓武射↓そして「奉射」と変わってきています。放つ十二本の桑の矢を十二ヶ月にみたて、晴雨や、月の豊凶を占ったということなのです。ここでは『天下泰平』『家内安全』『五穀豊穡』を願い、持ち帰る破片と弓は、魔除けとされていたようです。

ところで、皆さんのところでは、一月十四日の小正月に、(ものづくり)や、(三九郎)の行事は行われていませんか。『萬物作』と習字紙に書き、神棚の近くに一年中貼っておくのですが、紙の中心に書いた萬物作の両側には、『豊年満作』『五穀豊穡』『家内安全』『交通安全』『商売繁盛』『無病息災』といったような願い事を書いています。『交通安全』なかなか現代風ですね。

安曇支部 丸山 萬佐巳